

子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて（「量の見込み」及び「確保方策」）

子ども・子育て支援法に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画については、国の示す指針により、量の見込みが実績と大きくかい離している場合には、計画期間の中間年を目安に、必要に応じて実態を踏まえた計画の見直しを行うこととされています。

1. 量の見込みと確保方策とは

本計画では、教育・保育事業、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み（＝どのくらい需要があるか）、対応する提供体制の確保の内容、実施時期（＝いつ・どのくらい供給するのか）を定めることとなっています。

当初計画の策定では、各事業の現在の利用状況及びニーズ調査を踏まえて量の見込みを推計し、目標値を設定しました。今回の見直しでは再度ニーズ調査は行わず、最新の児童推計値、利用実績等をもとに、国の見直し方針を基本に再推計を行います。

2. 児童数の推計値

（当初計画策定時）

	R2 見込	R3 見込	R4 見込	R5 見込	R6 見込
0歳児	350	344	338	330	322
1歳児	355	368	362	356	347
2歳児	416	369	382	376	370
3歳児	379	428	379	392	386
4歳児	424	380	428	380	393
5歳児	444	427	382	431	382
6歳児	404	448	431	386	435
7歳児	439	406	450	433	388
8歳児	450	441	408	452	435
9歳児	448	449	440	407	451
10歳児	463	450	451	442	409
11歳児	446	462	449	450	441
合計	5,018	4,972	4,900	4,835	4,759

（見直しに伴う人口推計モデル）

	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	R6 見込
0歳児	319	290	301	303	303
1歳児	353	340	299	310	312
2歳児	400	371	362	308	319
3歳児	380	407	387	385	317
4歳児	427	390	409	405	409
5歳児	447	436	400	413	423
6歳児	402	442	451	410	417
7歳児	441	407	446	463	420
8歳児	450	444	406	445	475
9歳児	447	448	443	408	444
10歳児	461	449	452	443	409
11歳児	448	463	451	453	443
合計	4,975	4,887	4,807	4,746	4,691

令和2年度から令和4年度の実績値は、0歳児の人数が大きく減少しています。特に令和3年度の0歳児は300人を下回り、それ以降の年度に大きな影響を与えています。要因としては、新型コロナウイルス感染症によるものが大きいと考えます。

令和5年度以降の見込みは、直近5か年の歳児の増減率を算出し、児童数に乗じて得た数としました。0歳児においては、母子手帳の交付件数等も勘案して算出しています。本市は、社会動態の増加（転入者の増）が他市と比較し多い傾向にあるため、今後も増加を見込みますが、出生数の低下による児童数の減少は進んでおり、短期間でコロナ禍前の水準まで戻することは不可能と考えます。

3. 量の見込みと確保方策の計画と実績のかい離について

令和2年度から令和4年度の保育ニーズ（量の見込み）は、0歳児は計画値と実績値がほぼ同数となっています。しかし、1～2歳児と3～5歳児は、計画値より実績値が大きく、保育ニーズの高さがうかがえます。

実績値は入所申込者数となり、利用児童数（実際に入所した数）と比較すると、申し込みはしたものの、特定の園希望などにより入所を見送った児童も多くいることがわかります。

なお、令和2年度に0歳児と1～2歳児に待機児童が発生していますが、入所できる施設が不足したことにより認可保育施設へ入所できなかった児童になります。

量の見込みの計画値と実績値及び利用児童数

		R2	R3	R4	
3号認定	0歳児 10月1日現在	計画値①	101	96	101
		実績値②	105	93	99
		計画値との差②-①	4	▲3	▲2
		利用児童数③	81	77	77
		申込数②-利用数③	24	16	22
		待機児童数	17	0	0
	1～2歳児	計画値①	353	352	362
		実績値②	403	419	384
		計画値との差②-①	50	67	22
		利用児童数③	369	394	368
		申込数②-利用数③	34	25	16
		待機児童数	11	0	0
2号認定	3～5歳児	計画値①	618	620	609
		実績値②	671	660	705
		計画値との差②-①	53	40	96
		利用児童数③	662	656	698
		申込数②-利用数③	9	4	7
		待機児童数	0	0	0

※0歳児は、10月時点の実績値（申込者数）としており、令和4年度は、令和2年度と令和3年度の平均値としています。

4. 量の見込みと確保方策の今後の見込みについて

<幼稚園、認定こども園の教育標準時間利用>

1号認定の量の見込み（教育ニーズ）の実績は、令和2年度、令和3年度は計画値を上回りました。また、確保方策も、令和3年度に瓜連保育園が幼保連携型認定こども園になり教育部分の定員を増やしたため増となっています。

令和5年度以降については、量の見込み（教育ニーズ）は現状を見込み、確保方策は、大成学園幼稚園で増築により保育認定の定員を増やし、1号認定の定員を令和5年度から令和7年度にかけて段階的に減らしていく計画があるため見直しています。

なお、ひまわり幼稚園の3歳児受入れについて検討していますが、この見直しには反映していません。

1号認定(3～5歳児)

		実績			見直し	
		R2	R3	R4	R5	R6
量の見込み (需要量)	当初計画 A	419	415	401	408	393
	見直し後 A'	468	435	387	408	393
	A'-A	49	20	▲ 14	0	0
確保方策 (供給量)	当初計画 B	545	545	545	545	545
	見直し後 B'	545	560	560	551	542
	B'-B	0	15	15	6	▲ 3
確保方策- 量の見込み	当初計画 B-A	126	130	144	137	152
	見直し後 B'-A'	77	125	173	143	149

<保育所、認定こども園保育時間利用、地域型保育事業>

2号及び3号認定の量の見込み(保育ニーズ)の実績は、計画を大きく上回っており依然として保育ニーズの高さがうかがえます。また、確保方策については、令和2年度にARINKOMURAとやえナーサリー・スクールを令和4年度にゆいのいえを開所し供給量を確保しました。しかし、それでもなお需要量に対して供給量が不足していたため、市内保育施設には、利用定員を上回って受け入れてもらう弾力運用を行うなどして対応をしました。

令和2年度には待機児童解消等アクションプランを策定し、0～2歳児の供給量の確保の必要性が示され、保育施設の整備の方向性が決定し、認可施設の増築と小規模保育事業所の新規開設による利用定員増を図りました。

令和5年度以降については、依然として保育ニーズは高いと見込まれますが、現在進めている保育施設の整備により、0～2歳児の供給量が増えるため保育ニーズに対応できるものと見込んでいます。しかし、3歳から5歳の需要量は、令和6年度まで供給量を上回る見込みとなっています。

出生数が減少傾向にあるため、保育を利用する割合は高いものの、需要量は段階的に減っていき、現在予定している供給量で確保できると考えます。また、育児休業制度の定着、新型コロナウイルス感染症に関連し、0歳児の利用は年度途中からの利用が主流となっていくものと思われます。

2号認定(3～5歳児)

		実績			見直し	
		R2	R3	R4	R5	R6
量の見込み (需要量)	当初計画 A	618	620	609	621	604
	見直し後 A'	671	660	705	705	689
	A'-A	53	40	96	77	85
確保方策 (供給量)	当初計画 B	647	647	647	647	647
	見直し後 B'	613	630	647	656	665
	B'-B	▲ 34	▲ 17	0	9	18
確保方策- 量の見込み	当初計画 B-A	29	27	38	26	43
	見直し後 B'-A'	▲ 58	▲ 30	▲ 58	▲ 49	▲ 24

3号認定(0歳～2歳児)

		実績			見直し	
		R2	R3	R4	R5	R6
量の見込み (需要量)	当初計画 A	454	448	463	460	458
	見直し後 A'	508	512	483	482	486
	A'-A	54	64	20	22	28
確保方策 (供給量)	当初計画 B	440	470	488	488	488
	見直し後 B'	462	473	481	529	529
	B'-B	22	3	▲ 7	41	41
確保方策- 量の見込み	当初計画 B-A	▲ 14	22	25	28	30
	見直し後 B'-A'	▲ 46	▲ 39	▲ 2	47	43

5. 見直し後の教育保育の量の見込みと確保方策

(1) 幼稚園、認定こども園教育標準時間利用による確保内容

【1号認定】

	実績			見込	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
量の見込み(①)	468	435	387	408	393
利用定員(幼稚園・認定こども園)(②)	545	560	560	551	542
過不足(②-①)	77	125	173	143	149

(2) 保育所、認定こども園保育時間利用、地域型保育事業による確保の内容

【2. 3号認定】

	実績						見込			
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	3-5歳	0-2歳								
量の見込み(①)	671	508	660	512	705	483	705	482	689	486
利用定員 (保育所・認定こども園等)(②)	613	462	630	473	647	481	656	529	665	529
過不足(②-①)	▲ 58	▲ 46	▲ 30	▲ 39	▲ 58	▲ 2	▲ 49	47	▲ 24	43

<結論>

1号認定については、当初計画から利用定員(供給量)が量の見込み(需要量)を上回っており、今後も不足する見込みはないことから、現計画のままとします。

2号、3号の認定については、0～2歳児は、既に整備が進められ利用定員(供給量)が増えるため、令和5年度から不足はないと見込みます。しかし、3～5歳児は本計画期間である令和6年度まで量の見込み(需要量)が利用定員(供給量)を上回る見込みとなっています。これは、すでに弾力運用により保育施設で受け入れている児童が持ち上がることにより生じているもので、供給量を確保すれば解決できるものではないと考えます。

以上のことから、第2期子ども・子育て支援事業計画策定後から進めていた利用定員の確保により、令和5年度以降0～2歳児の待機児童は解消することが見込まれ、新たな量の確保は不要と思われるため、見直しは行わず現計画により進行するものとします。

(参考) 当初計画値

【1号認定】

	実績			見込	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
量の見込み(①)	419	415	401	408	393
利用定員(幼稚園・認定こども園)(②)	545	545	545	545	545
過不足(②-①)	126	130	144	137	152

【2, 3号認定】

	実績						見込			
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	3-5歳	0-2歳								
量の見込み(①)	618	454	620	448	609	463	621	460	604	458
利用定員 (保育所・認定こども園等)(②)	647	440	647	470	647	488	647	488	647	488
過不足(②-①)	29	▲ 14	27	22	38	25	26	28	43	30

(参考) 保育所等申込件数(保育ニーズ)の実績と今後の見込み

	0歳児			1歳児			2歳児			3歳児			4歳児			5歳児		
	児童数	3号認定	認定割合	児童数	3号認定	認定割合	児童数	3号認定	認定割合	児童数	2号認定	認定割合	児童数	2号認定	認定割合	児童数	2号認定	認定割合
R2	319	105	32.9%	353	195	55.2%	400	208	52.0%	380	223	58.7%	427	217	50.8%	447	231	51.7%
R3	290	93	32.1%	340	189	55.6%	371	230	62.0%	407	221	54.3%	390	221	56.7%	436	218	50.0%
R4	301	99	32.9%	299	169	56.5%	362	215	59.4%	387	248	64.1%	409	227	55.5%	400	230	57.5%
R5	303	100	33.0%	310	190	61.3%	308	192	62.3%	385	227	59.0%	405	250	61.7%	413	228	55.2%
R6	303	100	33.0%	312	191	61.2%	319	195	61.1%	317	196	61.8%	409	241	58.9%	423	252	59.6%
R7	303	100	33.0%	313	192	61.3%	317	197	62.1%	328	201	61.3%	327	208	63.6%	435	256	58.9%